

「アジアン・セイント」の一場面=土佐尚子教授・EXPO 2012 YEOSU KOREA提供



世界最大級LEDディスプレーに映像作品 京大教授

5月12日に開幕する韓国・麗水万博に登場する世界最大級のLEDディスプレー（長さ250㍍、幅23㍍）で上映する作品を、メディアアーティストの土佐尚子・京都大教授（50）が作製した。竜などが躍動する、迫力ある3分映像で、会場入り口の天井スクリーンで15分おきに上映される。

土佐教授が4日、発表した。題名は「アジアン・セイント（アジアの守り神）」。方位の守り神・四

韓國の万博

神が戦い、巨大な竜が大画面を泳ぐ。その後、亀甲文字が漢字に変形して般若心経となり、最後は58体の十二神将が宇宙を背に現れる。土佐教授は「戦争を乗り越え、文字や思想を得て、一緒に未来を築く物語。アジアが一つに、との思いを込めた」と話す。

四神は北朝鮮の世界遺産・高句麗古墳群、十二神将は奈良の東大寺や新薬師寺を参考に手描きました。完成まで2年間かかったという。

（筒井次郎）